

こくりにゆう だより

2020

1月



あけまして おめでとうございませう 1月号

大阪府立池田高等学校 2年 大西 紗耶 「今年もがんばります!!!」



今後のイベント情報

※場所の記載がないものはとよなか国際交流センターで開催します。



イングリッシュ・デイ

外国につながりをもつ親子向け母語活動

1月19日(日)

10:00~12:00

子ども向け英語のアクティビティと保護者同士の交流会。

定員:10組(申込先着順)

参加費:1家庭500円

講師:ホートン佐和子さん(エーゴスキー)

対象:外国にルーツをもつ子とその保護者

(小学生以下・保護者同伴必須)

申込:1/17(金)までに電話・来館で受付。



Unlearn学びほぐしセミナー

「『こんな夜更けにバナナかよ』から
問い直す支援-被支援の関係性」

2月11日(火・祝) 15:00~17:00

ノンフィクションライター・渡辺一史さんと、支援とは何か、ボランティアとは何か、「フツウ」とは何かについて考える。

定員:50名(申込先着順)

参加費:無料

講師:渡辺一史さん(ノンフィクションライター)

申込:電話・来館で受付。

保育:無料(首のすわった0歳~未就学児まで)

2/4(火)までに要申込



11月16日(土)開催

多文化フェスティバル

外国語体験活動の
ボランティアによる
プチ外国語レッスン
→



多文化フェスティバルは、在日・帰国・渡日などの多文化な背景をもつ子どもたちが主役となって活動できる場を、地域から創造する試みの一つとして始まり、今回で15回目を迎えました。

これまでに引き続き、今年も多文化な子ども・若者と共に活動を行う豊中市・近隣市の団体による体験型のブース出展やパネル展示、ステージ発表など盛りだくさんの内容でした。参加者は、「世界のあいさつビンゴ」シートを持って各ブースを回り、体験を終えると世界のあいさつの書かれたハンコを押してもらいビンゴを完成させて楽しみました。また、中国の保護者の方による軽食「春餅(しゅんびん)」もふるまわれました。最後にはお楽しみ抽選会を行い、大盛況のうち幕を閉じました。

ご協力いただきましたみなさま、ありがとうございました！
来年もお楽しみに！！(協会職員・山根絵美)



人間すごろく



高校生による母国紹介

11月10日(日)開催

子どもへの日本語学習支援の取り組みの実践と活用

とよなか国際交流協会では、市民ボランティアにより結成された日本語指導者グループ“とよなかJSL(Japanese for School Life)”とともに、自主的な活動から豊中市との協働事業や委託事業など、さまざまな形態で子どもへの日本語学習支援を実施してきました。

その活動で積み重ねてきた実践をまとめた本『学習力を育てる日本語教案集』が、2019年7月にくろしお出版から刊行されました。今回のシンポジウムでは、その教案集をもとに、実際に子どもへの指導にあられた先生方が、当時の経験を踏まえ、子どもへの日本語の指導と実践について発表されました。

当日は各地で子どもの日本語に関わる方を中心に50人を超える参加がありました。寄せられた感想には「子どもの日本語に関する資料が少ないので、とても助かる」「とても分かりやすく、(自分の)活動でも活かしたい」などの声が寄せられました。(協会職員・黒島トーマス友基)



大勢の方にお越しいただきました！

絶賛発売中！
『学習力を育てる日本語』
(田中兼監修・くろしお出版)



11月30日(日)開催

おまつり地球一周クラブ コリアタウンへ行こう！

生野コリアタウンへフィールドワークに行きました！まずは鶴橋駅周辺の市場を見学。その後、文献上「日本最古の橋」と言われている「つるの橋跡」や弥栄神社をまわりました。お昼は食事やお土産を買い、それぞれが自由に散策をして過ごしました。



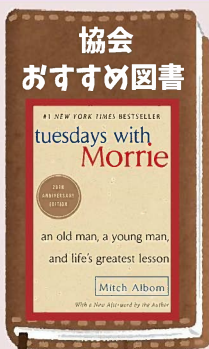
鶴橋駅すぐの市場を散策

後半は、地元出身でコリアタウンの中にあるNPOクロスベイス職員・^{きむふみん}金和永さんに案内していただきました。まず、コリアタウンの歴史や在日コリアンについてなどを子どもたちの目線でわかりやすく解説いただきました。それから朝鮮学校や地元の小学校、町中を一緒にまわりお話しした中で、「多文化共生」についてもじかに学ぶことができました。

近年は観光地として賑やかなコリアタウンですが、その一方で、変わりゆく町と人々やそこに住む方々の思いについて説明していただいたことで、参加した子どもたちや保護者のみなさんも貴重な学びを得ることができたようでした。(協会職員・大庭みゆき)



コリアタウンの東側を流れる平野川の歴史をきく



tuesdays with Morrie (邦題：『モーリー先生との火曜日』 Mitch Albom著)

2~3年前、兄の家の本棚に置いてあり、読みやすそうだなと思って読んでみました。

主人公は大学教授のモーリーと、著者である教え子のミッチ。16年ぶりに恩師のモーリーに再会したミッチは、難病を患い衰えていくモーリーから毎週火曜日に「人生の授業」を受けることになります。恩師の最期まで続けられた授業はとても感動的で、「人生の意味」を考えさせられる内容でした。

これから大人になる人たちにも薦めたい一冊です。もしかしたら人生で大切にしたいことが、この本の中で見つけられるかもしれません。

(多言語相談サービス事業インドネシア語スタッフ・デヴィナ)

今回は、『学習支援・サンプレイス』のボランティア・政影直音さんにお話を伺いました。

こんにちは。私は^{まさかげ なおと}政影直音といます。今は京都の同志社大学の大学院で大学院生をやっています。

国流に関わることになったきっかけは豊中駅のポスターで「サンプレイス」という外国にルーツを持つ子どもの居場所づくりの支援を行うボランティアの募集を見かけたことです。

「サンプレイス」では外国にルーツを持つ子どもにとって家でも学校でもない“第三の居場所”と一緒に宿題やあそびをしながら作る場所です。

私自身20余年豊中市でずっと暮らしています。昔生活情報センターくらしかんの隣に国流があったころ、よくジブリのビデオを見に訪れていたのを思い出しながら、豊中での取り組みがどういったものなのか興味があき、見学を訪れたことが国流に関わるきっかけになりました。

子どもと関わることは得意ではなかったのですが、続けていく

ちに自分が来ることを楽しみにしてくれる子どもや周りのボランティアにも支えられながら半年続けることができました。

外国にもルーツを持つ子どもの居場所づくりの支援であるはずが、その子どもにも自分が支えられながら自分自身にとっても居場所となる、そんな場所になっています。「居場所づくり」とは片方からの支援というよりは、双方のコミュニケーションによって成立するという当たり前のことにうなずきながら楽しく活動を続けています。今の目標はこのようなうなずきがどういふものなのか、ことばにすることです。

現在「サンプレイス」では、この活動に参加できる大学生・大学院生を募集中です！！



学習支援サンプレイス
ボランティア
まさかげ なおと
政影 直音 さん

イモヂョモ コラム ● | 모 지 모 通信

第5回 冬を迎えた「釜ヶ崎」

ファンボカンチャ
皇甫康子

2018年2月号に最終回を迎えた連載「なんじゃ・カンジャ・言わせてもらえば」の執筆者、皇甫康子さんのコラムです。皇甫さんの想いとメッセージがイモヂョモ（あれこれ）詰まったコラムをどうぞ。

「釜ヶ崎」「あいりん地区」という呼び名で知られている、日雇い労働者の街を歩いた。釜ヶ崎の形成史を読むと、清国やロシアとの戦争に勝利した日本は繁栄の基礎となる労働力を貧農階層や朝鮮人労働者に依存していて、そんな労働者を受け入れたのが釜ヶ崎だった。1910年、朝鮮を植民地にした日本は朝鮮人を強制徴用して、鉄道建設や軍事施設へ動員し、急激な資本の蓄積に成功する。戦争中の軍需産業、戦後のアメリカによる経済復興と朝鮮戦争の「特需ブーム」によって釜ヶ崎も労働者の街として再生する。

1964年の東京オリンピックから1970年大阪万博までの急激な労働力の需要により、単身労働者密集居住地区としての釜ヶ崎が成立する。日本で一番野宿者の多い街として、このせまい地域に一時期は3万人もいたが、現在は1万人に減少している。

失業や借金で、住むところがなくなり、釜ヶ崎に流れ着いた人たちは、一日一万円と張り出された日雇い求人の車にのって、厳しい労働現場に連れていかれる。雨が降れば仕事はなくなり、宿泊費が払えない。市の支援施設も少なく、野宿することになる。仕事にありつけず、週二回の炊き出しだけでは栄養不足で病気になる。そして、2000年から中学生や高校生による襲撃事件が起こった。福島原発事故当時に、条件の良い仕事だと飛びついたが、原発事故現場の作業だと知り、恐ろしくなって逃げてきたという人もいた。

不就学の子どもたちは、1962年開校のあいりん小学校、中学校（当時は分校）に集められ通学するが、朝食が摂れない子どもが多く、午前中の体育ではバタバタ倒れ、教員たちが見るに見かねて市と交渉しパンと牛乳の朝食を支給したという話も聞いた。就職時にあいりん中学校出身だと名乗ると、差別されることが多く、結局、閉校となった。映画、「さとにきたらええやん」の「こどもの里」に入ると、いろいろな年齢の子どもたちが思うままに過ごしていた。民間のこの小さな家が、どれだけたくさんの子どもや保護者たちを支えてきたのかと思うと、頭が下がる。

説明を聞きながら監視カメラがある街を歩いていると、仕事がある人とそうではない人がはっきりしてくる。昼間でも路上で毛布にくるまっている人、集まって話をしている人、公園で炊き出しに並んでいる人たちの視線を浴びると「見学」「フィールドワーク」している自分たちが恥ずかしい。最近は就職できない若い世代が奨学金の返済に追われたり、実家に頼れなくなったりして、野宿する人が増えているそうだ。女性はさらに大変で、誰もいないビルの非常階段で寝ている人もいた。まずは、職場の仲間に伝え、子どもたちに話をした。今年も、釜ヶ崎は厳しい冬を迎えている。

【イベント告知】 Unlearn 学びほぐしセミナー

2008年に始まり、断続的に開催しているUnlearn学びほぐしセミナー（「あたりまえ」に対抗するばづくり・ひとづくり実践者セミナー）を2年ぶりに開催します！

本セミナーはこれまで身に付けてきた既存の価値観や概念をいったんほぐして、そこから見えてくる社会や暮らしのあり方について考えることを目的としています。今回は講師に豊中出身で『こんな夜更けにバナナかよ』、『なぜ人と人は支え合うのか「障害」から考える』の作者・渡辺一史さんをお迎えし、支援—被支援の関係性や、ボランティアとは、「フソウ」とは何かを問い直す機会とします。

(協会職員・山根絵美)

Unlearn学びほぐしセミナー

「『こんな夜更けにバナナかよ』から
問い直す支援—被支援の関係性」

日時：2月11日(火・祝)15:00~17:00

会場：とよなか国際交流センター

講師：渡辺一史さん

定員：50名(申込先着順)

参加費：無料

申込：電話・来館にて受付。

06-6843-4343

保育：2/4(火)までに要申込



2020 1月 の事業開催カレンダー

赤字はイベントです。イベントの詳細は表紙下部をご覧くださいか、とよなか国際交流協会へお問い合わせください。

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
30 休館日	31 休館日	01 休館日	02 休館日	03 休館日	04	05 貸室利用抽選会 目的利用：～4月末まで 一般利用：～3月末まで
06 もっど	07 *1 おやこ 学楽多	08 休館日	09 木ひる にこにこ 千里	10 金あさ にこにこ 相談 学楽多	11	12 がちゃ 母語 サンプル 若者
13 成人の日	14 おやこ 学楽多	15 休館日	16 木ひる にこにこ 千里	17 金あさ にこにこ 相談 学楽多	18 つどい	19 がちゃ サンプル 若者 イングリッシュ・デイ 10:00～12:00
20 もっど	21 おやこ 学楽多	22 休館日	23 木ひる にこにこ 千里	24 金あさ にこにこ 相談 学楽多	25	26 がちゃ 母語 サンプル 若者
27 もっど	28 おやこ 学楽多	29 休館日	30 木ひる にこにこ 千里	31 金あさ にこにこ 相談 学楽多	01	02

*1：7日の『おやこでほんご』の活動については、活動場所によって開催の有無が異なります。詳しくはとよなか国際交流協会へお問い合わせください。

センターが主催する定例事業

月曜日…もっどもっどつかえるにほんご ※ひらがな・かたかなが書ける人が対象	10:00～12:00
火曜日…おやこでほんご (千里・岡町・庄内の各図書館で実施)	10:00～12:00
子ども学習広場「学楽多」 (庄内ガダバで実施)	16:30～21:00
木曜日…とよなかにほんご・木ひる	13:30～15:20
多文化こども保育にこにこ	13:30～15:30
千里にほんご (千里文化センターコラボで実施)	10:00～11:30
金曜日…とよなかにほんご・金あさ	10:30～12:00
多文化こども保育にこにこ	10:30～12:00
外国人のための多言語相談	11:00～16:00
子ども学習広場「学楽多」	17:00～19:00
土曜日…韓国・朝鮮のこぼとあそびのつどい ※毎月第3土曜日のみ	9:30～11:30
日曜日…にちようがちゃがちゃだん	10:00～12:00
こども母語※第2,4日曜日のみ	10:00～12:00
学習支援サンプレイス	13:00～15:00
若者のたまりば	17:00～20:00

場所の記載のないものはとよなか国際交流センターで実施しています。
定例事業の参加についてはとよなか国際交流協会にお問い合わせください。

今月のピックアップ

イングリッシュ・デイ

とよなか国際交流センターでは、外国にルーツを持つ子どものための母語教室(スペイン語、中国語、ポルトガル語、タイ語)を開講していますが、この間「英語の母語教室はないですか?」という声が寄せられるようになりました。

それを受け、外国にルーツを持つ子どもを主な対象に英語活動を行っているグループ「エーゴスキー」さんと一緒に、この度外国にルーツを持つ子どもとその親を対象に、英語の母語活動として「イングリッシュ・デイ」を開催することになりました。1日のみの開催ですが、ぜひご参加ください!



とよなか国際交流センターおしらせ 「こくりゅうだより」第129号(2020年1月号)

発行元・問い合わせ:(公財)とよなか国際交流協会
〒560-0026 大阪府豊中市玉井町1丁目1-1エトレ豊中6F
(阪急宝塚線豊中駅すぐ)
開館時間:9:00～21:30(貸室受付は20:00まで、水曜休館)
TEL:06-6843-4343 FAX:06-6843-4375
E-Mail:atoms@a.zaq.jp WEB:http://www.a-atoms.info/



SNSも随時更新中!

とよなか国際交流センター」で検索!

多言語情報も
配信しています!

